

CEFR chapter 2 – 2.2

# 言語熟達度の共通参照レベル

国際日本専攻M2

奥睦実 (5319003)

# 言語熟達度の共通参照レベル

Common reference levels of language proficiency

- 言語習熟度（言語コミュニケーション能力）を6段階に分類  
（各レベルの詳細など→Ch.3）
- 共通参照レベルを垂直次元、記述カテゴリー（Ch.4-5）を水平次元とし、単純ではあるが学習空間図を描くことができる

(ガイドブックQ6より)

- 国際的なスタンダード
- TOEICなどとの相関あり

# 共通参照レベルの有用性 (1/3)

- それぞれの達成レベルで何が期待できるかを、より具体的に述べることができる
- 長期間の学習を連続性のあるユニットに分けること、またシラバスと教材を相互に関連付けることが容易になる
- 学習目標に関連する努力とユニットを、熟達度の成果と関連付けて評価することが容易になる
- 学外などでの偶発的な学習も考慮に入れた評価ができるかもしれない

## 共通参照レベルの有用性 (2/3)

- 異なるシステムや状況でも、学習目標・レベル・教材・達成度・評価の比較が容易になる
- 水平・垂直の両方向から見ることで、部分的な学習目的の定義、不均衡な言語能力や部分的な能力の認定が容易になる

## 共通参照レベルの有用性 (3/3)

- 学習者が異なった領域で適切なレベルで学習しているかの検討が容易になる
- ある領域における学習段階での基準を満たしているかの判断、その後の目標設定の参考になる
- 様々な教育機関で共通して利用できる達成度評価の尺度となる

# 共通参照レベルの注意点 (1/2)

- 言語学習の過程は持続的、かつ個人差がある
  - 恣意的レベル分け→実用面は○
  - 参考：付録A（言語熟達度の記述文の開発）
- 垂直方向のみを考慮している
  - 横へ領域を広げることが可能
    - 横滑り先のカテゴリーの上位・下位技能の発達へ

## 共通参照レベルの注意点 (2/2)

- 言語熟達度の尺度・レベルを、直線的・等間隔で測ることはできない

